

経営比較分析表（令和5年度決算）

和歌山県 御坊市

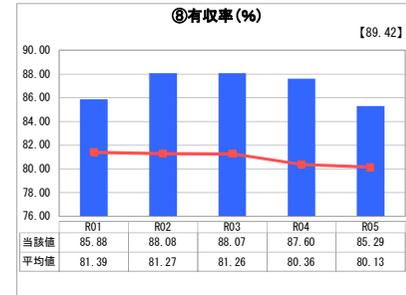
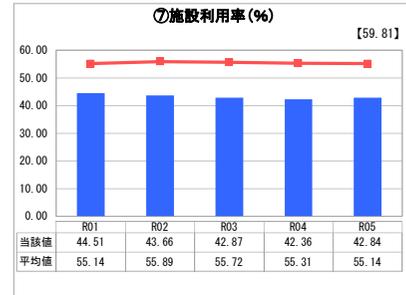
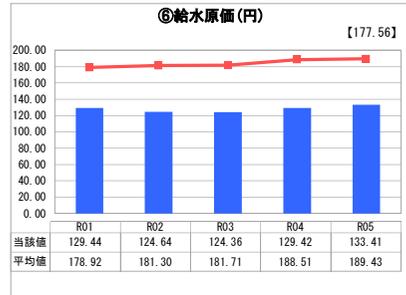
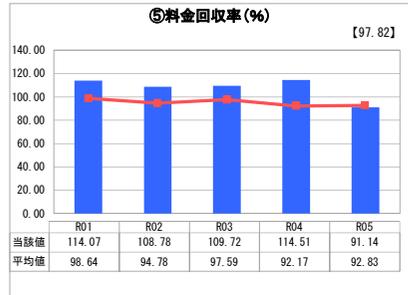
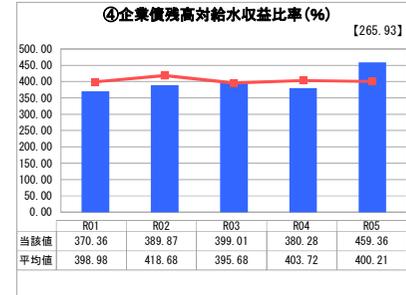
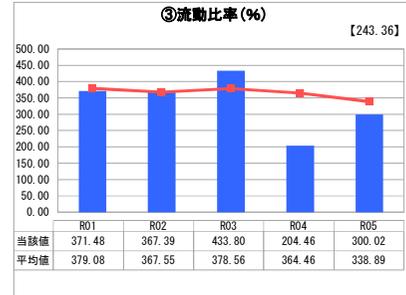
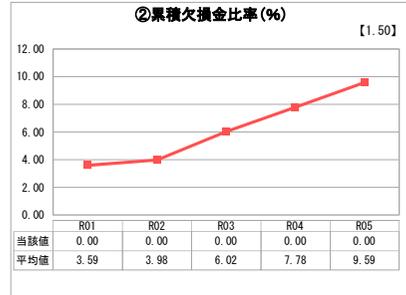
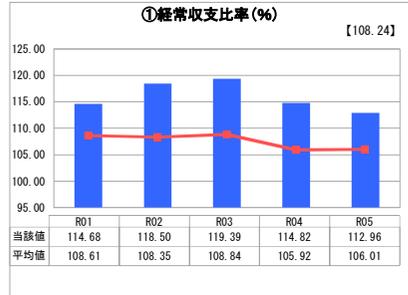
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	72.33	99.60	2,420	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
21,540	43.91	490.55
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
21,228	43.91	483.44

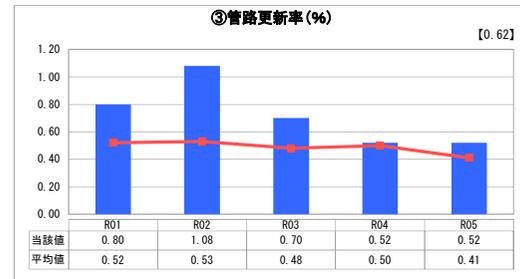
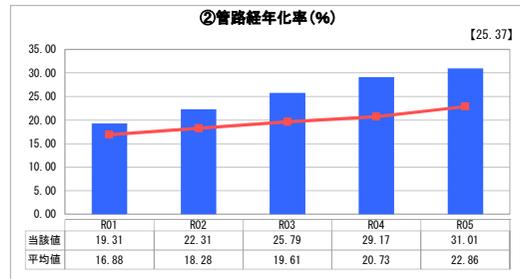
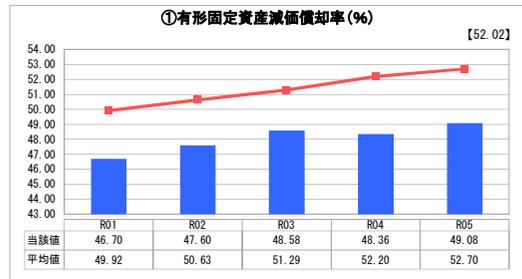
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、100%を超えていることから経常的な活動の収支状況は良好である。
 ②累積欠損金は発生していない。
 ③流動比率は昨年度より値が増加し、類似団体平均値については下回っているが、年度を跨ぐ支払いの増加に伴い一時的に流動負債(分母)が増加した影響である。当該値は短期的な財務安全性が高いといえる。
 ④企業債残高対給水収益率は悪化したように見えるが、新型コロナウイルス感染症に対する支援策で基本料金を五ヵ月間減免した。全額市が補填したため実質的な値は373.21となり前年度(380.28)より減少で良好である。今後借入金を償還金以下に抑えて借入残高を減少させていく。
 ⑤新型コロナウイルス感染症に対する支援策の減免分を含めると、実質的な値は112.17となり100%を超えていることから必要な費用を料金収入で賄えているといえる。また、類似団体平均よりも値が高いことから、本市の料金水準は比較的適切であると言える。
 ⑥給水原価は1m³の水を給水するために必要な費用である。経年変化は微増であるが、類似団体と比較して低くなっており良好である。
 ⑦施設利用率は類似団体平均値を下回っており、また経年変化も減少傾向にある。ただちに改善できないが更新時に適正規模になるように検討する。
 ⑧有収率は、昨年よりも少し悪化しているが、漏水調査や管路の修繕等の対策を講じていることもあり類似団体よりも高くなっている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は微増し、施設の経年化は類似団体と同じような状況で推移している。
 ②管路経年化率は悪化しており、類似団体平均値よりも悪い状況である。今後も法定年数を超えた管路の割合が増えていくことが見込まれる。
 ③管路更新率については、類似団体平均よりも値が高いが、経営戦略における投資目標である1%以上を更新できるように進めていく必要がある。

全体総括

本市の水道事業の経営状況は概ね良好ではあるが、水道施設が1970年～80年代に第3次拡張事業等で整備されたものが多く残存しており、経年による老朽化が進行し、大規模な更新時代を迎え老朽化対策が課題となる。人口減少時代の到来とともに節水型社会への移行などにより料金収入の減少が予想されるなか、持続可能な水道事業を実現するために、中長期的更新需要や財政見通しに基づく投資規模等の適正化を図るとともに、計画的な施設更新・資金確保等を検討し「経営戦略」を策定した。令和2年度より10年間の計画期間とし、投資と財源にかかる経営目標を設定し着実に進めていく。とりわけ管路更新については、一時的に事業費が偏在することから、管路の管種や重要度・老朽度等を勘案した上で優先順位を設定し、設備投資の平準化を図りながら取り組んでいく。